母「そう，そんなことでしたから，A男も，妹も，家で落ち着いて勉強できませんし，頭にも入らなかったんだと思います。そして，だんだん家で勉強しなくなりました」

父「母さんも，やれＰＴＡだ，婦人学級だ…と外へ出ては，夜遅くまで家に帰って来なかったことがあって，ずい分子供たちに寂しい思いをさせて…」

父親も母親も，初めのころはお互い不機嫌な顔をして，非難めいた振り返りの会話を交わしていた。しかし，担任が回を重ねて家庭訪問を行い，両親の言葉や行為に対し，何らの非難をすることなく，受容的，肯定的に聞き入れているうちに，次第にA男へのかかわり方を反省し始めた。

担「お父さんもお母さんも，そのころは何か容易でない，つらいことがあったのでしょう」

父「会社のことや，お金の工面……いろいろあってね…。A男が中学生になったばかりのころかな……A男が勉強していたとき，私は，あい変わらず酒を飲んできて，ぐずぐず言っていた。そしたら，A男のやつ，夜家出をしてしまったっけ…」

母「私も，そんな父さんの姿を見ると，つい，『酒ばかり飲んでいて，ちっとも子供らのことを面倒見ないんだから…』などと，子供たちの前で夫婦げんかをしてしまいました」

父「あれでは，A男は落ち着いて勉強できるわけがない…」

母「家出するのも無理なかったわね。家庭の雰囲気がよくなかったもの」

父「兄（A男）よりできのいい妹と比べて，ばか者，怠け者あつかいをしていた」

母「A男はそれで，『どうせおれはだめなんだから…』と，よくやけっぱちになっていた…」

父「それでA男はやる気をなくしたのかも知れないな…」

このような話し合いの後，しばらくしてから父親は次第に，酒を飲んでもぐずぐずいうことが少なくなってきた。暴言や乱暴も減ってきた。お酒の量も少なくなってきたと母親はいう。しかも，ときどき父親はA男に「勉強ははかどっているか」「塾への行き帰り，自転車でけがなどしないように…」などと，いたわりの声をかけるようになった。

母親は，A男の塾からの帰りを待っておやつを作ってやったりしている。

また両親はA男の妹に対して次のようなかかわり方をするようになった。

母「お兄ちゃんは高校受験なんだから，勉強のじゃまをしないように…」

父「おまえもお兄ちゃんのようにがんばりなよ」

両親のこのようなかかわり方のためか，A男は両親や妹との言い争いが少なくなってきている。また，学校からの帰り，塾からの帰りの時刻が定まってきた。さらに，家庭での学習への取り組みにも落ち着きが見られるようになってきている。就寝時刻，起床時刻もリズムにのり，学校の始業時刻にも遅れることがなくなってきた。夜間外出は全くしなくなった。

② 学校不適応感をとり除く

他の中学校の反社会的行動をとる仲間とのつき合いがあることから，級友からは敬遠され，先生方からは何かにつけてマークされ，注意されたり叱られたりした。そのことから，級友や先生方との関係がまずくなり，学校不適応感を抱くようになった。これに対し，担任は次のような指導援助を進めた。

- 折にふれて温かいことばかけをする。全教師にもこのことをお願いした。
- 望ましくない行動（遅刻をする。授業中に教室を抜け出すなどの行動）に対して先生方が注意をするのは当然であることをくり返し言い聞かせた。
- A男に，学級への所属感をもたせるために，A男の趣味（熱帯魚の飼育）を生かすべく，学級会にはかって，熱帯魚を飼うことにした。A